

高難度の加工にも挑戦 「ヘラ絞り」のスペシャリスト

納期相談
コスト相談
オンライン技術
試作可
小ロット
量産対応



ヘラ絞り加工した冷凍保存容器

業務内容
手絞りから機械加工まで
産業用部品にも着手

アルミ洗面器や鍋など家庭用品のヘラ絞り
で創業し、昭和40年代からヘラ絞り加工
技術を生かして店舗用照明器具の製造も手
がける。現在では、業務用冷凍保存容器や
送風機器部品といった産業用部品の加工も
行う。ヘラ絞りとは、丸く切削した金属板
を回転させながら、「ヘラ」と呼ばれる棒
を押し当て薄くのばして成形する加工法で、
多品種少量生産に向いている。板の厚み
がある程度保持しながら成形するには扱いが
難しく、熟練した技術が必要だ。同社では
職人技を用いて手作業で加工する「手絞り」
加工から、量産品に適した機械加工まで幅
広く対応している。

強み
匠の技で深絞りにも対応

同社では、取り扱いが難しく業界の中で
も敬遠されやすい「深絞り」にも対応する。
通常1.5mm厚のステンレス板は、加工途
中でしわや割れをおこし、反り返りも出る
ため、一般的には100mm程度の深さまで
しか対応できない。しかし同社では、ベテ
ラン職人の「匠の技」により、200mmの
深さまでヘラ絞り加工を行った実績がある。
プレス加工など、ほかの工法も組み合わせ
ることで製品ごとに最適な加工の提案も可
能だ。顧客からは、難度の高い製品の加工
方法についての問い合わせや、見学の申し
込みなどもあるという。

人材育成
自ら考えられる人材育て
業務の効率化図る

製品に合わせた最適な加工法を見つける
ためには、作業員自身が複数の技術を知り、



熟練の技を要するヘラ絞り加工



機械化を進める工場

今後の展望
技術力と提案力生かし
新規顧客を開拓

プラスチック製品の普及による金属製容器
の衰退やコスト削減を目的とした顧客の海外
工場移転など、時代の変化とともに同社も
変革を迫られてきた。こうした厳しい状況
の中でも「何もないところからどう事業を
生み出すか」を模索し続けた創業者の教え
のもと、これまで培った技術力と提案力を
生かし新規顧客の開拓に取り組んでいる。
「この仕事は人の力で回っている」と強調
する田邊専務。機械だけでは対応できない
細かな調整は、職人の手でこそ差別化でき
ると前向きに捉えている。

当社の歴史



終戦後、創業者が友人に誘われてヘラ絞り加工を始めたのが
創業のきっかけです。洗面器や鍋など家庭用品の金属加工を
手がけてきましたが、プラスチックの流行や海外製品の流入で
下火に。さまざまな加工を組み合わせる技術力を生かして、現在
は産業用製品の加工や照明器具の製造に力を入れています。

代表取締役専務 田邊 正秀さん

<http://www.amayoshi.co.jp/>

主な事業内容

ヘラ絞り加工、プレス加工、
旋盤加工、店舗用照明器具
の製造

主な取引先(納入先)

店舗用照明器具メーカー、
各種送風機器メーカー、
冷凍保存容器メーカー

●住所 〒581-0822
八尾市
高砂町3-3-16
●TEL 072-998-3407
●FAX 072-998-7655
●創業 昭和27年7月
●設立 昭和37年8月
●資本金 2,000万円
●従業員 16名